

MySQL 5.5.32 リリースノート（日本語翻訳）

機能の追加と変更

- **mysql_upgrade** が、サーバのバージョンがコンパイルされたバージョンと一致するかを確認し、不一致の場合は処理を終了するようになった。さらに、`--version-check` オプションで、バージョンチェックを有効にする(デフォルト)か、または `--skip-version-checking` が指定された場合にチェックを無効にするかを指定できるようになった。(Bug #16500013)

修正されたバグ

- **重要な変更; レプリケーション:** `--binlog-ignore-db` でサーバが実行されている状態で、`SELECTDATABASE ()` が `NULL` を返した(つまり、現在選択されているデータベースがない)場合、`dbname.tblname` 形式で完全修飾されたテーブル名を使用するステートメントがバイナリログに書き込まれなかった。これは、このようなケースで現在選択されているデータベースがない場合、`ignore` オプションがないことに対する一致ではなく、あり得る `ignore` オプションに対する一致として処理されるためであった。つまり、このようなステートメントは常に無視されていた。

現在選択されているデータベースがない場合、完全修飾されたテーブル名を使用するステートメントが常にバイナリログに書き込まれるようになった。(Bug #11829838、Bug #60188)

- **InnoDB:** クリーンシャットダウン後、InnoDB は起動時に `.ibd` ファイルヘッダをチェックしない。このため、クラッシュリカバリシナリオで、InnoDB が破損したテーブルスペースファイルをロードする可能性があった。この修正では、破損したファイルをロードしないようにするため、一貫性チェックおよびステータスチェックを実装した。(Bug #16720368)
- **InnoDB:** `page_zip_available` 関数がいくつかのフィールドを2度カウントしていた。(Bug #16463505)

- **InnoDB:** デバッグビルドで、無効な表明で挿入が失敗していた `sync_thread_levels_g(array, level - 1, TRUE)`。(Bug #16409715)
- **InnoDB:** `dict_update_statistics()` を同時に複数呼び出すと、不要なサーバロードになっていた。(Bug #16400412)
- **InnoDB:** カーネルミューテックスを解放した後、`lock_rec_block_validate()` 関数を呼び出すと、ロックが無効になり、`lock->index` に対する無効な読み取りにより、Valgrind エラーになる可能性がある。この修正では、カーネルミューテックスが保持されているときに `lock->index` をコピーし、`lock->index` を `lock_rec_block_validate()` に渡す。(Bug #16268289)
- **InnoDB:** トランザクションが READ COMMITTED アイソレーションレベルである場合、行が挿入されても、セカンダリインデックスに対してギャップロックが使用されていた。これは、セカンダリインデックスに重複がないかスキャンされる場合に発生していた。関数 `row_ins_scan_sec_index_for_duplicate()` は、トランザクションのアイソレーションレベルに関係なく、常に `LOCK_ORDINARY` で関数 `row_ins_set_shared_rec_lock()` を呼び出していた。この修正では、トランザクションのアイソレーションレベルに基づいて `LOCK_ORDINARY` または `LOCK_REC_NOT_GAP` で `row_ins_set_shared_rec_lock()` を呼び出すよう、`row_ins_scan_sec_index_for_duplicate()` 関数が修正された。(Bug #16133801)
- **InnoDB:** `--innodb log buffer size=50GB` で `mysqld` を起動すると、メモリの割り当てに失敗し、NULL が返されていた。非デバッグビルドでは、チェックがなく、セグメンテーションエラーが発生していた。この修正により、メモリ割り当てに失敗したことを示すログメッセージが追加されるとともに、表明が追加された。(Bug #16069598)
- **InnoDB:** デバッグビルドで `UNIV_DEBUG` が有効であると、`buf_validate()` がしばしば呼び出され、セマフォ待機タイムアウトのテストで不正アラームになることがある。この修正により、不正アラームを減らすために、カウンタ値が増える。(Bug #16068056)

- **InnoDB:** ファイル名を解析することでパーティションに関する情報を提供する `explain_filename` 関数において、パーティション情報のないファイル名を解析しようとする、エラーが返された。(Bug #16051728)
- **InnoDB:** エラーが発生した `UPDATE` ステートメントの場合、更新時に開かれたテンポラリファイルが閉じられない可能性があった。(Bug #15978766)
- **InnoDB:** `innodb_row_lock_time_max` および `innodb_row_lock_current_waits` でオーバーフローが発生していた。この修正では、`storage/innobase/srv/srv0srv.c` のコードロジックを修正する。(Bug #16005310)
- **レプリケーション:** `--database` オプションで `mysqlbinlog` を使用して、行ベースの形式のバイナリログから単一のデータベースをリストアしようすると、ポイントインタイムリカバリが失敗する可能性があった。(Bug #16698172)
- **レプリケーション:** `--dump-slave--include-master-host-port` オプションと一緒に使用した場合、`mysqldump` がポート番号を整数ではなく文字列値であるかのように引用符で囲んで出力していた。(Bug #16615117)
- **レプリケーション:** `--log-slave-updates` と `--replicate-wild-ignore-table` の両方のオプションでサーバを実行すると、ユーザ変数に対する更新がログに記録されないことがあった。(Bug #16541422)
- **レプリケーション:** スレーブが、マスタからの切断後、特定の条件下で、再接続時に、`slave_max_allowed_packet` よりも大きなパケットを受信した旨を間違って報告し、レプリケーションが失敗する可能性があった。(Bug #16438800、Bug #68490)
- **レプリケーション:** 準同期レプリケーションが有効な場合、`ON COMPLETION NOT PRESERVE` を使用して作成されたイベントのマスタでの自動ドロップにより、マスタが失敗していた。(Bug #15948818、Bug #67276)
- **レプリケーション:** ストアドプロシージャ内部で `SET` カラムを `NULL` に設定すると、レプリケーションが失敗していた。(Bug #14593883、Bug #66637)

- **レプリケーション:** 関数 `my_b_fill()` が「0」を報告した場合、エラーが発生した可能性があるにもかかわらず、関数 `MYSQL_BIN_LOG::write_cache` が常にキャッシュの終端に達したものと判断したため、バイナリログの内容が破損することがあった。この修正により、`my_b_fill()` が「0」を返した場合は必ず `info->error` でエラーチェックを実行するようになった。(Bug #14324766、Bug #60173)
- **レプリケーション:** バイナリログ形式を使用した `BLACKHOLE` テーブルへのレプリケーション時に、更新および削除を適用できず、スキップされる。これが発生した場合、警告が生成されるようになった。

注意

`BLACKHOLE` ストレージエンジンを使用するテーブルへのレプリケーション時には、`binlog format=STATEMENT` が推奨される。

(Bug #13004581)

- 空間操作に対する WKB リーダが失敗し、サーバが終了する可能性があった。(Bug #16451878)
- `EXPORT SET ()` または `MAKE SET ()` で `COUNT (*)` 引数が多いと、サーバが終了する可能性があった。(Bug #16359402)
- 実行可能スクリプトと仮定される `sql-bench` ディレクトリ内の複数のスクリプトに、実行可能なアクセスビットが設定されていなかった。(Bug #16395606)
- デバッグビルドで、`debug` システム変数値が 255 文字を超えると、`DEBUG_EXPLAIN` でバッファオーバーフローになっていた。(Bug #16402143)
- サーバの起動時に `thread pool high priority connection` を設定できなかった。(Bug #16310373)
- `.spec` ファイルの `obsoletes` 行の問題により、Oracle RPM パッケージが `yum` で使用できなかった。`yum` がパッケージを自ら廃棄しているものと解釈していた。(Bug #16298542)

- 外部参照を持つサブクエリを含む `GROUP CONCAT ()` 起動で、サーバが終了していた。(Bug #16347343)
- デバッグビルドで、`ORDER BY` 句内の `GROUP CONCAT (... ORDER BY)` でサーバが終了する可能性があった。(Bug #16347426)
- `MIN ()` を使用するクエリに対してルーズなインデックススキャンを使用した場合、セグメンテーションエラーが発生する可能性があった。(Bug #16222245)
- 1つの要求内で複数のステートメントが送信された場合、監査ログプラグインが最後のステートメントだけを記録していた。現在は、各ステートメントを個別にログに記録するようになった。(Bug #16169063)
- `GROUP CONCAT ()` と複数のカラムを指定する `ORDER BY` 句を使用するプリペアドステートメントでサーバが終了する可能性があった。(Bug #16075310)
- `ORDER BY MATCH ... AGAINST` でサーバの終了を招く可能性があった。(Bug #16073689)
- 複数のサーバが動作している状態で `status` コマンドを実行した場合、エラーが発生し、`mysql.server` スクリプトが終了していた。(Bug #15852074)
- Union と Join の組み合わせによるクエリがパーサをクラッシュする可能性があった。(Bug #14786792、Bug #16076289)
- Solaris パッケージを使用したインストールの場合、アップグレード操作時に `mysql_install_db` が実行されていた(これは新規インストールの場合にのみ実行される)。(Bug #14747671、Bug #16534721)
- MySQL 5.1 GA ビルド前の古いバイナリログ形式の行ベースのレプリケーションイベントを処理する場合、`mysqlbinlog` でヒープバッファの領域外読み取りとなり、未定義の動作を招く可能性があった。(Bug #14771299)
- インタラクティブモードで各行を読み取ると、その後、`mysql` クライアントは文字列を割り当てるものの、文字列を解放せず、メモリリークが発生していた。(Bug #14685362)
- ビューの `INSERT ... ON DUPLICATE KEY UPDATE` でサーバが終了する可能性があった。(Bug #14261010)

- サブクエリの外部 **BLOB** カラムによるグルーピングで、サーバが終了していた。(Bug #13966809、Bug #14700180)
- 無効な比較からのエラーの不適切な処理により、サーバが終了する可能性があった。(Bug #13009341)
- すべてのプラットフォームで **unsigned time_t** の **CMake** チェックが失敗していた。(Bug #11766815)
- 64 ビットの Mac OS X システムにおいて、マシンタイプを設定する際、**CMake** は **x86_64** でなく、**x86** を使用していた。(Bug #58462、Bug #11765489)
- 右側のクエリ条件でテーブルが括弧で囲まれている **UNION** を呼び出す正規クエリをパーサが却下していた。(Bug #54382、Bug #11761854)
- **mysql** データベースのヘルプテーブルの **url** カラムが短すぎて、ヘルプコンテキストに一部の URL を収容できなかった。新規インストールの場合、これらのカラムは、長い URL に対応できるよう、タイプ **TEXT** として作成されるようになった。

アップグレードの場合、**mysql_upgrade** はカラム更新しない。ステートメントを使用して手動で変更する。

```
ALTER TABLE mysql.help_category MODIFY url TEXT NOT NULL;  
ALTER TABLE mysql.help_topic MODIFY url TEXT NOT NULL;
```

(Bug #61520、Bug #12671635)

- ルーズなインデックススキャンを使用して、整数カラムを引用符で囲まれた文字列として指定された整数(たとえば、**col_name = '1'**)と比較するクエリを評価する場合、クエリで間違った結果が返される可能性があった。(Bug #68473、Bug #16394084)
- プリペアドステートメントと非プリペアドステートメントで実行した場合、**IF()** 関数評価で異なる結果が生成される可能性があった。(Bug #45370、Bug #11753852)

- `INSTALL MYSQLTESTDIR` オプションを明示的に空に設定した状態で **CMake** を起動することにより、ソースから MySQL をコンパイルした後、`mysql-test` ディレクトリのインストールを抑制できるようになった。

```
cmake . -DINSTALL_MYSQLTESTDIR=
```

これまでは、このような場合、エラーになっていた。(Bug #58615、Bug #11765629)

- インデックスプリフィックスでレンジアクセスを使用すると、間違った結果が生成される可能性があった。(Bug #68750、Bug #16540042)
- `MD5 ()` コードがデータ構造の 1 つを正しく初期化しなかった。(Bug #68909、Bug #16626742)
- オプションファイルで指定した場合、`plugin-dir` クライアントオプションが無視されていた。(Bug #68800、Bug #16680313)
- サブクエリを含む `UPDATE` が `InnoDB` 内部でデッドロックを起こした場合、SQL レイヤでデッドロックが正しく処理されなかった。`InnoDB` がトランザクションをロールバックした後、SQL レイヤはこの行をロック解除しようと試行し、`InnoDB` 内部で表明を生成していた。(Bug #69127、Bug #16757869)

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。